

医療通訳アプリ発売

2社と
協調
外国人受け入れ支援

前橋のC&T

医療通訳支援サービスを手掛けるC&T（前橋市石倉町、滝沢清美社長）は、県内2社と協調し、医療機関の通訳支援用ウェブアプリ「メディカルランゲージ2」を発売した。外国人が言葉の面などで安心して受診できることを示す「外国人患者受け入れ医療機関認証制度（JMIP）」の評価項目に対応している。訪日外国人客が増加傾向にある中、外国人を受け入れたい医療機関の態勢づくりを後押しする。

医療機器販売のメデ

イコ（高崎市箕郷町上

開発（前橋市表町、宇

田川利明社長）と協調

経済産業省の「新連携

事業計画」に「国際医

療通訳ソリューション

サービスの事業化」と



医療通訳サービスで連携する（左から）
宇田川社長、滝沢社長、戸沢社長

して認定された。JMIPは外国人が日本の医療サービスを安心して、円滑に受けられる体制づくりを進める日本医療教育財団の認証制度。多言語体制や、宗教や文化に配慮した対応などの整備が求められる。

C&Tは昨年、医療機関が外国人の受診に対応できるよう、医療現場で使われる約6千

の会話を収めたアプリ「メディカルランゲージ」を発売。新たなアプリは会話集に加え、施設案内図や書類の書き方、検査項目の説明、患者の同意書の書式などを多言語で収録する。

アプリはJMIPの評価項目のうち9割以上に当てはまり、ソフト面でシステム化できるほぼ全てに対応する。英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語があり、今後、ロシア語やベトナム語なども追加する。

価格は医療機関の規模によって異なり、基本パッケージで1千万円前後を想定する。

C&Tは今年にも、遠隔医療通訳コールセンターの稼働に向けた実証実験を始める。合

わせて医療通訳をまず50人育成し、来年4月のサービス開始を目指す。2018年度末までに24時間の通訳態勢を整える。

滝沢社長は「3社で協力してシステムを整備し、新しい産業を生み出したい」としている。

滝沢社長は、起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）」（上毛新聞社主催、田中仁財団共催）で2014年にメディカルランゲージを発表し、ファイナリストになった。